

中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

2006年1月20日号

目次

◎2001～2005年、全国の農業への投資額が1335億元に達する

【経済日報 2006年01月12日】

◎農産物輸送で割引料金適用する「グリーン道路」が開通

【経済日報 2006年01月16日】

◎交通部、2010年までに農村部の道路建設に1000億元を投下

【経済日報 2006年01月16日】

◎2010年までに水利整備に4628億元を投下

【経済日報 2006年01月16日】

◎天冠集団、ラオスでアルコール燃料原料のキャッサバを栽培

【中国化工報 2006年01月19日】

◎雲南省、旧正月明けにエタノール混合燃料投入へ

【中国化工報 2006年01月20日】

◎2001～2005年、全国の農業への投資額が1335億元に達する

【経済日報 2006年01月12日】

財政部の廖曉軍・部長は、11日に開かれた全国農業総合開発業務会議にて、第10次5カ年計画(2001～2005年)期間中、農業への総合開発投資資金は計1355億元に達したと発表した。

内訳は、中央政府によるものが428億7000万元(世界銀行融資と外国政府無償支援は計19億3500万元)、地方政府によるものが308億3600万元、生産者農家、企業などの資金が399億8900万元、銀行融資などが107億3000万元、その他の資金が90億9000万元となってい

る。

また、2001～2005年、収穫量が少ない農地1億2900万ムー（1ムーは6.6アール）を改造、農産物の生産能力は新たに食糧が20,364千トン、綿花が423千トン搾油原料が1,301千トン増加している。

また、財政部は今年、収穫量が少ない農地の改造、節水灌漑（かんがい）普及などを中心として農業インフラ施設を整備していく計画である。

◎農産物輸送で割引料金適用する「グリーン道路」が開通

【経済日報 2006年01月16日】

全国で農産物輸送道の「グリーン道路」7本全てが15日までに開通した。「グリーン道路」は、交通部、公安部、農業部、商務部、国家発展改革委員会、財政部などの7機関が発表した「全国生鮮農産物製品の専用輸送道建設に関する計画」に基づいて建設されたもの。これら道路は、銀川（寧夏回族自治区）－昆明（雲南省）、フフホト（内モンゴル自治区）－南寧（広西チワン族自治区）、北京－海口（海南省）、ハルビン（黒龍江省）－海口、上海－海口、連雲港（江蘇省）－ウルムチ（新疆ウイグル自治区）、上海－ラサ（チベット示威区）の各地を結ぶもので全長は2万7000キロメートルに達する。

「グリーン道路」では、野菜、果物、水産物、家禽・肉製品、乳製品、タマゴを含む生鮮農産物を輸送する自動車について、積載量が規定内で各種証明を具備している場合、通行料を割引いていく方針である。

◎交通部、2010年までに農村部の道路建設に1000億元を投下

【経済日報 2006年01月16日】

交通部は、15日に開催された全国交通業務会議にて、第11次5カ年計画（2006～2010年）期間中に1000億元を投じて農村部道路を整備、西部地区各省を結ぶ道路網を建設、内陸河川の輸送能力を引き上げる重点プロジェクトなどを実施していくとの方針を示した。交通部は2010年まで以下の面で力を入れていく。

1. 道路網を整備し、2010年までに全国の道路総延長を現在より38万キロメートル増の230万キロメートルに増加させていく。
2. 沿海港湾の取扱能力を向上させ、コンテナ、石炭、オイルガス、鉄鉱石の中継輸送体系を整備する。
3. 長江主流航路を整備すると共に珠江デルタ地区、長江デルタ地区で高水準の航路を建設する。
4. 水上安全監督体系、近代的な救援体系を整備していく。

◎2010年までに水利整備に4628億元を投下

【経済日報 2006年01月16日】

水利部の矯勇・副部長は、先ごろ、開催された全国水利計画会議にて、第11次5カ年計画（2006～2010年）期間中の全国水利整備への投資額は4628億元に上るとの見通しを示した。整備資金は、農村部を中心に投下し、農村1億人の飲料水の安全を確保、農村人口の半数が水道水を飲めるようにするほか、灌漑（かんがい）面積を新たに3000ムー（1ムーは6.6アール）増加させていく。矯副部長によれば、国は2010年までの目標として以下の点を挙げている。

1. 全国主要食糧生産地における大規模な洪水発生頻度5～10年に1度に抑える。
2. 農村での水道普及率を現在の40%から50%に引き上げる。
3. 農村1億人の飲料水の安全を確保する。
4. 年間の給水能力を400億立方メートル増加させる。
5. 灌漑面積を3000万ムー増加させる。
6. 農村での水力発電ユニットを新たに1500万キロワット増加させ、電化村400カ所を建設する。
7. 水源、土壌流失面積20万平方メートルを整備する。

◎天冠集団、ラオスでアルコール燃料原料のキャッサバを栽培

【中国化工報 2006年01月19日】

アルコール燃料メーカー、河南省天冠集団は、先ごろ、ラオスで5万ヘクタールのキャッサバを栽培していくことを決定、ラオスの計画投資委員会との間でこれに関する協力協定を取り交わした。

中国では、2000年から一部地区で自動車用アルコール燃料の使用を進めてきている。バイオマスは、古穀物が中心で新収穫の穀物を原料とした場合のコストは高くつくため、各メーカーは低コストの代替原材料の使用を進めている。キャッサバは、デンプン・脂肪・蛋白質などが多く含まれ、気候的にもラオスでの大規模栽培に適している。ラオス側は天冠集団について税制面で優遇していく方針である。

天冠集団は、まず2000万元を投資、年間のキャッサバ収穫量は80万～90万トンに達する見込み。栽培地5万ヘクタールは60年間借り上げる。

◎雲南省、旧正月明けにエタノール混合燃料投入へ

【中国化工報 2006年01月20日】

雲南省は、春節（旧正月。1月29日）連休後に自動車用エタノール混合燃料を全州市場に投入していくことを明らかにした。価格は、現在の燃料よりも低く設定される見込み。雲南省の石油製品消費量は1日あたり1万トン（ガソリン4000トン、ディーゼル燃料6000トン）、年間では360万トンとなっている。

同省ではすでに、石油製品卸売・小売を行う最大の民営企業・雲南強林石化有限公司が2005年9月に自動車用エタノール混合燃料を他社に先駆けて開発している。今年の全国での自動車用

エタノール混合燃料生産のために必要なエタノールは200万トン以上と予測されている。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。